

公益財団法人日本美術刀剣保存協会 令和4年度事業報告及び決算報告

I 事業の実施状況

1. 博物館事業

(1) 展示事業

令和4年度刀剣博物館の展示活動及び入館者数は25ページ表1の通りです。

(2) 鑑賞会事業

定例鑑賞会

定例鑑賞会は8月及び12月を除く毎月第2土曜日の午後(4月から7月までは午前1回、午後2回)に刀剣博物館講堂において開催し、鑑賞会には開催日平均37名の出席がありました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来実施していた方法を一部変更して鑑賞刀の入札を行いました。また、定例鑑賞会にあわせて、平成24年9月から刀剣を手にとって鑑賞したことがない初心者の方向けの刀剣の扱い方、鑑賞の方法を学ぶための「日本刀鑑賞マナー講座」を予約制で開催、修了した方には修了証を発行し、令和4年度は157名の参加者がありました。

その他協力団体が公益事業として開催する鑑賞会に、依頼により鑑定刀の貸与及び講師の派遣を行いました。令和4年度は68件の依頼があり、刀剣類5点を貸与し、鑑賞の指導を講師(当協会学芸員)が行いました。協力団体開催の鑑賞会の出席者は平均22名でした。

(3) 作品発表会(現代刀職展)

2022年度現代刀職展(旧新作名刀展及び旧刀剣研磨・外装技術発表会)を開催しました。この展示は、現代作家の作品発表の場の提供及び多くの方に技倆の高さをアピールすることを目的としており、令和4年11月29日(火)～12月25日(日)までの開催期間で、2,529名のお客様

にご来場いただきました。

(4) 古伝書等の公開

当協会収蔵の古伝書、一般刀剣関係書籍等を月曜日から金曜日の10時から16時(12時～13時を除く)まで事前予約制で一般の利用に供しました。入室、閲覧は無料とし、コピーサービス(有料)も提供しました。令和4年度は26件の利用がありました。

(5) 刀剣相談

当協会に来館、または書面、電話での刀剣等に関するあらゆる相談を受け付け、刀剣類の文化財としての位置づけを認識していただくとともに、刀剣類の手入れ方法や保存方法についても助言いたしました。また銃砲刀剣類所持等取締法に基づく所轄警察署への届出等、関係法令の周知徹底を図り、各都道府県教育委員会への登録申請の相談も受け登録業務に協力いたしました。

(6) 広報誌の発行

令和4年度は広報誌『刀剣美術』を783号から794号まで発行いたしました。当協会の編集委員及び編集担当職員が毎月編集委員会を開催して内容を検討し、投稿された刀剣関係の論文、随想、資料紹介等の掲載の他、鑑賞会の報告及び当協会や刀剣界の情報発信源として、また刀剣類の知識の向上を目的として会員の皆様への配布のみならず、刀剣博物館においても一般に販売いたしました。

(7) ホームページ活用

『刀剣美術』誌と共に、当協会や刀剣界の情報発信源として活用しているほか、刀剣の知識が学べるコンテンツを掲載しています。また、『刀剣美術』誌の一部記事を英訳してホームページに掲載し、海

外の研究者、愛刀家等の要望にも応えています。引き続き会員の皆様をはじめとしたお客様に分かりやすい情報発信に努め、お客様とのコミュニケーションツールとして運用してまいります。

2. 教育、講習事業

(1) 刀職技能訓練講習会

刀職者の技能向上とその普及を目的として、主として西日本エリアを対象として行っているこの講習会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、令和4年度で36回を数え、備前長船刀剣博物館において令和4年6月28日(火)から7月1日(金)の4日間開催いたしました。

講習部門は「柄下地の部」と「刀装金具の部」の2部門で、「柄下地の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「柄下地と基礎技法」を講習テーマとして実施し、受講者は1名でした。「刀装金具の部」は彫金師の無鑑査認定者の講師により「透鐔の制作」を講習テーマとして実施し、受講者は8名でした。また、閉講式において受講生に対し受講証書を交付いたしました。

(2) 第55回刀剣研磨・外装技術研修会並びに鍛冶研ぎ研修会

刀職者の技術の向上とその普及を目的とするこの研修会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、当協会講堂において令和4年7月18日(月)から7月23日(土)までの6日間開催いたしました。研修部門は「研磨の部」(前半3日間)及び外装の部として「白鞘の部」「柄前の部」「白銀の部」(後半3日間)であり、「研磨の部」は研師の無鑑査認定者の講師により、「下地研ぎ」を研修テーマとして実施し、研修生2名、聴講生8名の参加がありました。「白鞘の部」は鞘師の講師により、「掻き入れの基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生1名、聴講生2名の参加がありました。「柄前の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「蛇腹の基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生2名の参加がありました。「白銀の部」は鑑師の無鑑査認定者の講師により、「二重鑑の基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生1名、研

修生1名、聴講生5名の参加がありました。3年間の研修修了者は、研磨の部の研修生1名がおり、修了証書を交付し、その他研修生、聴講生にはそれぞれ研修証書、聴講証書を交付いたしました。なお、鍛冶研ぎの部は諸般の事情により開催を見合わせました。

(3) 第40回作刀技術実地研修会

この研修会は、文化庁の作刀承認を得ること及び若手刀匠の技術向上を目的として、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、令和4年9月28日(水)から10月1日(土)の4日間、島根県の日刀保日本刀鍛錬道場において開催しました。

本研修会は3年で修了となるカリキュラムで行っていますが、今回は第14期の2年目にあたり「素延・火造」をテーマとして講師に刀匠で無鑑査認定者2名により実施し、研修生2名、聴講生6名の参加がありました。この研修では近年のサブテーマである「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行いました。

3. コンクール事業

2022年度現代刀職展

現代作家の技術の向上及び普及を目的に、新作名刀展及び刀剣研磨・外装技術発表会を改組、新たに現代刀職展とした作刀の部、刀身彫の部、彫金の部、研磨の部及び外装の部として白鞘の部、刀装の部、柄前の部、白銀の部の8部門について広報誌『刀剣美術』、協会ホームページで公募し、作刀の部、刀身彫の部、彫金の部は令和4年7月19日(火)から21日(木)の間受け付け、令和4年7月28日(木)に審査会を開催し、また、研磨の部、白鞘の部、刀装の部、柄前の部及び白銀の部は令和4年8月24日(水)から26日(金)の間受け付けし、令和4年9月1日(木)に審査会を開催しました。無鑑査による出品は、作刀の部10点、彫金の部1点、研磨の部7点、柄前の部3点、白銀の部2点の合計23点でした。令和4年11月29日(火)午後1時30分から第一ホテル両国5階清澄において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、賞状及び副賞をそれぞれ交付しました。また、各部門について審査員の代表が審査員講評を行いました。

展示は、令和4年11月29日(火)から12月25日(日)まで刀剣博物館にて行いました。

全部門の受付点数、審査結果は25ページ表2のとおりです。

4. 検定・資料収集事業

(1) 刀剣類の保存・特別保存審査

4月、7月、10月と1月を除き、毎月保存・特別保存刀剣等の審査を実施し、刀剣は6月からの3か月毎に、刀装・刀装具は5月からの3か月毎に該当月の指定した3日間で受け付けます。受付点数に応じて審査会を複数回設け、審査は理事会の決議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に審査を行い、合格したものは鑑定書を発行しました。

なお、令和4年3月審査受付分から事前予約制とし、インターネットによる申請方法を導入いたしました。

今年度の受付点数、合格点数は次のとおりです。

区分	受付点数	合格点数
保存	7, 174	4, 818
刀装	381	188
特別保存	3, 392	1, 968
刀装	3, 675	2, 427
刀装具	1, 178	114
刀装具	1, 124	884

(2) 刀剣類の重要・特別重要審査

第27回特別重要刀剣等審査は、4月4日(月)～6日(水)の3日間で受け付けいたしました。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第1次及び第2次審査を行いました。また、5月28日(土)から7月31日(日)まで刀剣博物館において指定品の展示を行い、指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜を頒布いたしました。

第68回重要刀剣等審査は10月3日(月)～5日(水)の3日間で受け付け

いたしました。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第1次及び第2次審査を行いました。また、指定品の展示は令和5年1月7日(土)から2月26日(日)まで刀剣博物館において行いました。指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜を現在作成中です。

なお、受付点数、合格点数は次のとおりです。

区分	受付点数	合格点数
第27回特別重要	刀 378	35
	刀装 19	1
第68回重要	刀装具 59	6
	刀 817	6
	刀装 36	6
	刀装具 239	22

(3) 資料収集

保存・特別保存・重要・特別重要各審査の合格物件すべての調書を作成し、写真もしくは押形と共に保管し、データベースで管理しました。また過去の合格物件も順次データ化を進めております。

また、全国の重要文化財等を所蔵する施設に職員を派遣し、刀剣押形等の貴重な資料の収集を行い、収集した資料を刀剣美術にて公開しました。

5. 資格付与事業

(1) 無鑑査の選任

今年度末現在、無鑑査認定者は作刀の部が17名、彫金の部が1名、研磨の部が15名、外装の部が10名です。

(2) 伝位授与

伝位審議会を6月、9月、12月及び令和5年3月の4回開催し、初伝位5名、中伝位5名、奥伝位1名の合計11名の合格を認めるとともに、理事会等の決定により、それぞれ伝位証書を授与しました。

(3) 刀剣等指導員・刀剣等指導補助員登録

刀剣等指導員規程による指導員登録の申請が6名より提出され、いずれ

も刀剣等指導員規程第2条の資格を有しているため証明書が発行されました。刀剣等指導員の資格要件に中伝位以上を授与された者と規定されていることから、伝位授与と連動して指導員として刀剣文化の普及に活躍する人材を育てることを目的としています。

なお、今年度刀剣等指導補助員の申請はありませんでした。

6. たたら製鉄事業

たたら操業を令和5年1月25日(水)から3月11日(土)まで3代実施しました。これに先立ち、操業開始前の準備として数日前より釜土の混練や本床への火入れなどを行いました。炉床の状態を整え、本操業に臨み、伝統技術の保存・伝承に努めました。

操業自体は下準備から始まり、釜作り・3昼夜操業・釜壊しを1単位つまり1代と数え、釜作り以降の作業を行い、約2.5トンの鉤を生産しました。また操業終了後からは、生産された鉤を破碎し翌年度以降の玉鋼配布準備のため各等級毎に選別する作業を行いました。

操業期間外では、日刀保たたら村下の指導のもと、ほぼ通年で以下の作業を行っています。①たたら炭の生産(約36トン)、②粘土の選別と確保、③注文に応じての玉鋼発送作業、④その他適宜発生する業務。さらに、生産された玉鋼について全国の刀匠に頒布の文書を郵送しました。

7. 刀剣文化振興の助成事業

当協会の協力団体は3月末日現在国内に81団体、海外に4団体設立されており、全国及び海外の刀剣普及活動の拠点となっています。

〈国内81団体〉

日刀保根室支部 日刀保帯広支部 日刀保札幌支部 日刀保旭川支部
日刀保青森県支部 日刀保八戸支部 日刀保岩手県支部
日刀保秋田県支部 日刀保庄内支部 日刀保山形支部 日刀保米沢支部
宮城県美術刀剣保存協会 日刀保会津支部 日刀保福島県南支部
日刀保いわき支部 日刀保福島支部 新誠会 日刀保高崎支部
日刀保茨城県支部 土浦亀城刀剣会 日刀保栃木県支部

埼玉県刀剣保存協議会 日刀保千葉県東部支部 日刀保千葉県支部

日刀保東京都支部 日刀保東京多摩支部 日刀保横浜支部 鎌倉刀剣会

日刀保湘南支部 日刀保山梨県支部 日刀保新潟支部 日刀保長岡支部

日刀保富山県支部 越前愛刀会 日刀保石川県支部 日刀保若狭支部

日刀保福井支部 日刀保長野県南支部 日刀保長野県北支部

日刀保長野県東信支部 日刀保静岡県支部 日刀保静岡東部支部

日刀保三河支部 日刀保名古屋支部 日刀保岐阜県支部

日刀保三重県支部 日刀保京都府支部 日刀保大阪支部

日刀保兵庫県支部 姫路しらす刀剣会 日刀保奈良県支部

日刀保和歌山県支部 日刀保岡山県支部 日刀保山口県支部

広島県美術刀剣保存協会 日刀保島根県支部 島根県美術刀剣保存研究会

日刀保鳥取県支部 日刀保香川県支部 日刀保四国讃岐支部

日刀保香川県西支部 日刀保愛媛県支部 日刀保徳島県支部

日刀保高知県支部 日刀保北九州支部 日刀保八幡支部 日刀保博多支部

福岡美術刀剣振興会 福岡県文化財保存協会 日刀保筑後支部

日刀保熊本県支部 日刀保宮崎支部 日刀保延岡支部 日刀保長崎支部

日刀保佐賀県支部 葉隠刀友会 日刀保大分支部 日刀保大分県北支部

日刀保鹿児島県支部 薩摩刀業会 e・刀剣研究会

〈海外4団体〉

ヨーロッパ支部 アメリカ支部 ロシア支部 イタリア支部

(1) 協力団体で開催する鑑賞会へ講師の派遣及び鑑賞刀剣の貸与

1の(2)鑑賞会事業参照。

(2) 協力団体で開催する鑑賞会へ鑑賞刀剣のみの貸与

令和4年度は10件。

(3) 協力団体で主催する刀剣類の展示会の助成及び共催

今年度該当はありませんでした。

II 管理部門

1. 会員の状況 25ページ表3の通り。

令和5年4月1日以降の新入会者は107名。

今後とも会員獲得に努めてまいります。

2. 職員に関する事項

職員数計27名 男子19名 女子8名(前期末比増減なし)
平均年齢 男子51歳 女子47歳

3. 役員会等に関する事項

(1) 令和4年度第1回理事会

日時 令和4年6月10日(金) 午後1時30分から2時45分

議題 1 令和3年度事業報告及び決算(計算書類等及び財産目録)について

2 定時評議員会の招集について

3 伝位の授与について

(2) 令和4年度定時評議員会

日時 令和4年6月28日(火) 午後1時30分から2時30分

議題 1 令和3年度事業報告及び決算(計算書類等及び財産目録)について

(3) 令和4年度理事会(定款第44条による理事会)

日時 令和4年7月15日(金)

議題 1 決議の省略による評議員会の招集について

(4) 令和4年度評議員会(定款第26条による評議員会)

日時 令和4年7月26日(火)

議題 1 監事の選任について

(5) 令和4年度理事会(定款第44条による理事会)

日時 令和4年9月9日(金)

議題 1 基本財産への繰り入れについて

(6) 令和4年度第2回理事会

日時 令和5年3月27日(月) 午後1時30分から3時00分

議題 1 名誉顧問の推戴について

2 令和5年度事業計画及び予算(資金調達及び設備投資の見込みを含む)について

3 決議の省略による評議員会の招集について

4 基本財産への繰り入れについて

5 特定資産への繰り入れについて

6 規程類の改正について

7 令和5年度審査員の選任について

8 現代刀職展運営委員会委員の選任について

9 刀剣博物館資料収集委員会委員の選任について

10 役員賠償責任保険について

Ⅲ その他

(1) 外部文化団体等からの出陳要請により協会所蔵文化財のほか、玉鋼、砂鉄や、たたら製鉄の工程などのパネルを貸与しました。また各文化団体等からの要請により所蔵文化財等の画像を貸与しました。

(2) 刀剣博物館は海外からの関心も高く、また協会主催の研修会に海外在住者の参加希望もあり、そうしたニーズにできる限り柔軟に対応してまいります。

(3) 当協会は昭和23年に東京国立博物館内において設立され、昭和43年2月に代々木の地に会館を建設して移転しました。約半世紀を経過し、建物の老朽化が激しく、東京都墨田区旧安田庭園内両国公会堂跡地への新築移転計画を進め、墨田区をはじめとする関係各所との協議・検討を経て、平成28年7月に工事着工、平成29年8月に竣工し、刀剣博物館は平成30年1月19日より開館しました。刀剣博物館は令和5年度中の公開承認施設取得に向け、関係機関のご指導をいただきながら、引き続き準備を進めてまいります。また、墨田区とは移転時から友好関係を構築し、合同企画の実施等連携強化を図っています。

令和4年度事業報告には、定款第11条に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和5年6月

表 1

展示名	期間	一般	会員	招待	学生	中学生 以下	団体他	東京バス利 用者	計(人)
日本刀多彩なる造形展	4. 1～ 5. 22※1	4,253	65	437	559	473	0	—	5,787
第27回特別重要刀剣等 新指定展	5. 28～ 7. 31	3,196	181	308	372	360	0	7	4,424
令和の名刀・名工展	8. 6～ 9. 4	1,676	50	129	223	277	0	0	2,355
刀剣博物館 館蔵品展	9. 10～ 11. 23	7,400	218	462	846	643	174	1	9,744
2022年度現代刀職展 ～今に伝わるいにしえの 技～	11. 29～ 12. 25	1,826	100	210	207	185	0	1	2,529
第68回重要刀剣等新指 定展	R5. 1. 7 ～ 2. 26	4,685	132	332	584	751	0	2	6,486
鉄の源流 たたら製鉄と 日本刀展	3. 4～ 3. 31※2	2,997	40	143	334	275	28	0	3,817
合計		26,033	786	2,021	3,125	2,964	202	11	35,142

(うち 外国人5,813人)

※1 会期は令和4年2月26日から5月22日まで。

※2 会期は令和5年5月21日まで。

表 2

部 門	出品数	特賞	優秀賞	努力賞	入選
作 刀	3 5 点	6 点	7 点	8 点	1 4 点
刀 身 彫	1 点	0 点	1 点	0 点	0 点
彫 金	1 7 点	1 点	3 点	6 点	6 点
研 磨	7 9 点	9 点	1 5 点	1 9 点	3 5 点
白 鞘	1 1 点	0 点	1 点	4 点	6 点
刀 装	4 点	0 点	1 点	1 点	2 点
柄 前	1 1 点	1 点	2 点	4 点	4 点
白 銀	9 点	1 点	0 点	3 点	4 点
合 計	1 6 7 点	1 8 点	3 0 点	4 5 点	7 1 点

彫金の部、研磨の部及び白銀の部でそれぞれ1点落選となりました。

表 3

会員種別	国 内					海 外		計
	普通会員	学生会員	維持会員	優遇会員	終身会員	普通会員	終身会員	
令和5年3月31日	3,447人	21人	2人	5人	59人	225人	15人	3,774人
昨年度比	-153人	-1人	-2人	±0人	+2人	-14人	+1人	-167人

貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当期末	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	376,459,247	247,373,011	129,086,236
未払金	147,420,761	139,093,525	8,327,236
前払費用	87,864	124,484	△ 36,620
販売用資産	24,357,054	23,478,859	878,195
製材	92,795,546	87,816,007	4,979,539
流動資産合計	644,855,698	501,152,771	143,702,927
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	914,277,740	934,900,546	△ 20,622,806
投資有価証券	357,548,307	456,308,444	△ 98,760,137
刀剣及び小道具	198,526,988	99,548,000	98,978,988
基本財産合計	868,050,000	848,550,000	19,500,000
(2) 特定資産			
預投資有価証券	22,989,532	0	22,989,532
退職給付引当資産	96,487,123	0	96,487,123
減価償却引当資産	40,201,820	69,100,496	△ 28,898,676
刀剣学奨学積立資産	0	119,476,655	△ 119,476,655
新刀剣博物館建設積立資産	4,863,763	4,863,763	0
資料購入資産	31,489,409	31,489,409	0
特定資産合計	200,000,000	200,000,000	0
(3) その他固定資産	396,031,647	424,930,323	△ 28,898,676
建物付属設備	7,607,085	10,047,845	△ 2,440,760
構築物	389,879,767	442,400,965	△ 52,521,198
機械装置	85,947,416	91,902,825	△ 5,955,409
什器備品	5,387,914	6,361,206	△ 973,292
土地	22,837,133	28,941,944	△ 6,104,811
保証金	300,000	300,000	0
刀剣及び小道具	70,000	70,000	0
研修用教材	168,447,824	168,447,824	0
図書及び押型	15,367,000	15,367,000	0
ソフトラウエア	10,114,118	10,114,118	0
その他固定資産	8,960,000	8,960,000	0
その他固定資産合計	73,568,615	92,685,312	△ 19,116,697
固定資産合計	656,335	58,884	597,451
固定資産合計	789,143,207	875,657,923	△ 86,514,716
資産合計	3,523,577,889	3,639,895,236	△ 116,317,347
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	81,847,433	45,692,642	36,154,791
前払費用	30,253,600	25,164,720	5,088,880
預賞	3,072,824	3,545,131	△ 472,307
流動負債合計	7,722,725	8,863,671	△ 1,140,946
2. 固定負債			
退職給付引当金	40,201,820	69,100,496	△ 28,898,676
固定負債合計	40,201,820	69,100,496	△ 28,898,676
負債合計	163,098,402	152,366,660	10,731,742
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	389,147	523,975	△ 134,828
寄付金	75,117,986	83,110,938	△ 7,992,952
受贈固定資産	152,800,000	133,300,000	19,500,000
指定正味財産合計	228,307,133	216,934,913	11,372,220
(うち基本財産への充当額)	(196,817,724)	(185,445,504)	(11,372,220)
(うち特定資産への充当額)	(31,489,409)	(31,489,409)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(2,141,585,311)	(2,153,861,486)	(△ 12,276,175)
(うち特定資産への充当額)	(324,340,418)	(324,340,418)	(0)
正味財産合計	4,005,335,185	3,988,681,347	16,653,838
負債及び正味財産合計	4,168,433,587	4,141,048,007	27,385,580

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,310,026	47,335	2,262,691
基本財産利息収益	2,310,026	47,335	2,262,691
特定資産運用益	47,006	911,826	△ 864,820
特定資産受取利息	47,006	911,826	△ 864,820
受取会費及び入金	40,191,960	41,478,811	△ 1,286,851
会費及び入金	40,191,960	41,478,811	△ 1,286,851
事業収益	501,259,552	449,595,403	51,664,149
刀剣博物館入館料収益	28,116,500	13,844,433	14,272,067
保存刀剣等鑑定会受取会費	303,346,000	299,330,000	4,016,000
重要刀剣等指定会受取会費	65,144,000	52,524,000	12,620,000
鑑賞会受取会費	2,504,800	1,796,500	708,300
書籍売上高	10,749,766	5,006,615	5,743,151
出版売上高	4,541,696	4,857,494	△ 315,798
広告料収益	12,922,800	12,614,800	308,000
伝位登録料収益	495,000	385,000	110,000
たたら事業収益	73,438,990	59,236,561	14,202,429
受取補助金等	4,784,828	12,883,487	△ 8,098,659
受取国庫補助金	4,650,000	4,650,000	0
受取地方公共団体補助金	0	8,000,000	△ 8,000,000
受取国庫補助金振替額	134,828	233,487	△ 98,659
受取寄付金	8,245,624	8,903,466	△ 657,842
一般寄付金	250,000	830,000	△ 580,000
募金箱収益	2,672	0	2,672
受取寄付金振替額	7,992,952	8,073,466	△ 80,514
雑収益	2,671,964	2,614,809	57,155
受取利息	2,575	1,870	705
為替差益	10,800	6,501	4,299
雑収益	2,658,589	2,606,438	52,151
諸引当金戻入	8,863,671	8,884,112	△ 20,441
賞与引当金戻入	8,863,671	8,884,112	△ 20,441
経常収益計	568,374,631	525,319,249	43,055,382
(2) 経常費用			
事業費	533,880,054	523,516,631	10,363,423
役員報酬	3,102,400	3,248,000	△ 145,600
給料手当	140,086,942	150,155,955	△ 10,069,013
福利厚生費	21,388,156	22,075,430	△ 687,274
賃借料	22,019,058	18,720,290	3,298,768
旅費交通費	5,780,997	5,077,265	703,732
通信搬送費	11,566,593	13,727,895	△ 2,161,302
消耗品費	4,195,182	6,057,343	△ 1,862,161
印刷製本費	25,354,068	23,640,560	1,713,508
光熱水料費	10,389,776	6,943,489	3,446,287
修繕借費	14,941,484	26,076,287	△ 11,134,803
賃借料	28,645,681	21,963,672	6,682,009
租税公課	29,034,200	19,307,040	9,727,160
助成費	5,742,400	5,780,800	△ 38,400
支払保険料	4,348,169	3,113,302	1,234,867
書籍仕入費	8,123,241	4,598,578	3,524,663
玉鋼材負担費	11,926,285	8,501,873	3,424,412
支払負担金	131,307	127,167	4,140
委託託費	58,145,486	51,152,574	6,992,912
広告宣伝費	9,967,456	9,936,231	31,225
渉外費	1,336,022	1,107,711	228,311
雑費	2,087,680	1,583,243	504,437
減価償却費	102,605,167	89,395,503	13,209,664
退職給付費用	12,962,304	31,226,423	△ 18,264,119

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管 理 費	29,212,959	31,336,336	△ 2,123,377
役 員 報 酬	3,297,600	3,552,000	△ 254,400
給 料 手 当	2,858,917	3,064,407	△ 205,490
福 利 厚 生 費	1,125,692	1,161,865	△ 36,173
旅 交 通 費	2,259,043	2,194,709	64,334
通 信 運 搬 費	608,768	722,521	△ 113,753
消 耗 品 費	364,798	526,726	△ 161,928
光 熱 水 料 費	903,459	603,782	299,677
修 繕 繕 料	1,299,259	2,267,503	△ 968,244
貸 借 借 料	2,156,127	1,653,180	502,947
支 払 保 険 料	828,223	593,010	235,213
顧 問 料	5,592,400	6,540,050	△ 947,650
支 払 負 担 金	58,993	57,133	1,860
支 払 告 白 伝 費	0	307,306	△ 307,306
渉 外 費	273,643	226,880	46,763
雑 費	42,606	32,311	10,295
減 価 償 却 費	6,859,955	6,188,089	671,866
退 職 給 付 費	682,226	1,643,496	△ 961,270
会 議 費	1,250	1,368	△ 118
経 常 費 用 計	563,093,013	554,852,967	8,240,046
当 期 経 常 増 減 額	5,281,618	△ 29,533,718	34,815,336
2. 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
固 定 資 産 受 贈 益	0	800,000	△ 800,000
経 常 外 収 益 計	0	800,000	△ 800,000
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	800,000	△ 800,000
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	5,281,618	△ 28,733,718	34,015,336
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	3,771,746,434	3,800,480,152	△ 28,733,718
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	3,777,028,052	3,771,746,434	5,281,618
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
固 定 資 産 受 贈 益	19,500,000	55,300,000	△ 35,800,000
一 般 正 味 財 産 振 替	△ 8,127,780	△ 8,306,953	179,173
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	11,372,220	46,993,047	△ 35,620,827
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	216,934,913	169,941,866	46,993,047
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	228,307,133	216,934,913	11,372,220
III 正 味 財 産 期 末 残 高	4,005,335,185	3,988,681,347	16,653,838

財 産 目 録

令和5年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金		運転資金として	4,200,519
	普通預金	みずほ銀行 新宿新都心支店 他	運転資金として	328,410,391
	郵便貯金	代々木郵便局振替口座	運転資金として	43,848,337
	未収金		審査事業における審査料 他	147,420,761
	前払金	N T T 東日本ほか	通話料金の前払い分ほか	87,864
	販売用書籍	「入札鑑定同然帳」他	出版書籍の在庫である。	24,357,054
	製品	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の在庫である。	92,795,546
	原材料	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の材料の在庫である。	3,735,226
	流 動 資 産 合 計			
(固定資産) 基本財産	建物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	914,277,740
	普通預金	三井住友信託銀行新宿支店		238,306,198
	定期預金	東京東信用金庫両国支店 他	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	119,242,109
	投資有価証券	国債		198,526,988
	刀剣及び小道具	日本刀 他	公益目的保有財産であり、協会の事業の用に供している不可欠特定財産である。	868,050,000
基 本 財 産 合 計				2,338,403,035

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
特定資産	預金	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店 他	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	22,989,532
	投資有価証券	国債		96,487,123
	退職給付引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	職員15名に対する退職金の支払いに備えた積立資産である。	20,201,820
		定期預金東京東信用金庫両国支店		20,000,000
	刀剣学奨学積立資産	定期預金荘内銀行東京支店	刀剣類の優れた研究者の育成及び助成を目的とする積立資産である。	4,863,763
	新刀剣博物館建設資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	刀剣博物館建設事業の寄付金である。	31,489,409
	資料購入資産	東京東信用金庫両国支店	博物館での展示、鑑賞会、研究その他に活用する資料を取得するための資産である。	200,000,000
	特定資産合計			396,031,647
その他の固定資産	建物	島根県仁多郡奥出雲町	(供用財産) うち、公益目的保有財産99.4% うち、管理目的の財源として使用する財産0.6%	7,607,085
	建物付属設備	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産94% うち、管理目的の財源として使用する財産6%	389,879,767
	構築物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	85,947,416
	機械装置	島根県仁多郡奥出雲町 東京都墨田区横網1-12-9	公益目的保有財産である。	5,387,914
	什器備品	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	22,837,133
	その他固定資産	東京都墨田区横網1-12-9		656,335
	土地	長野県上田市		300,000
	保証金	(株)セコム	セキュリティシステム等の保証金として預けているものである。 公益目的保有財産である。	70,000
	刀剣及び小道具	東京都墨田区横網1-12-9 日本刀 他		168,447,824
	研修用教材	東京都墨田区横網1-12-9 刀剣及び小道具	公益目的保有財産である。	15,367,000
	絵画	東京都墨田区横網1-12-9 日本画 他	公益目的保有財産である。	10,114,118
	図書及び押型	東京都墨田区横網1-12-9 網屋押型 他	公益目的保有財産である。	8,960,000
	ソフトウェア	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産95% うち、管理目的の財源として使用する財産5%	73,568,615
	その他固定資産合計			789,143,207
	固定資産合計			3,523,577,889
	資産合計			4,168,433,587

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金		当期消費税確定額 他	81,847,433
	前受金	個人会員 他	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する会費等である。	30,253,600
	預り金	職員他	社会保険料 他	3,072,824
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	7,722,725
流動負債合計				122,896,582
(固定負債)	退職給付引当金	職員	職員16名に対する退職金の支払いに備えたものである。	40,201,820
固定負債合計				40,201,820
負債合計				163,098,402
正味財産				4,005,335,185

監査報告書

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
会長 酒井忠久 殿

令和5年6月1日

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 大久保 洋吉
公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 戸澤 重俊

公益財団法人日本美術刀剣保存協会における令和4年4月1日から令和5年3月31日までの監査の方法及び結果について、次のとおり報告いたします

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会などの会議に出席し、理事及び担当者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等及び会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、計算書類（貸借対照表・正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について監査いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 1) 事業報告は、法令及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に違反する事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を正確に示しているものと認めます。

以上